

2. 住民投票における投票行動

問1 あなたは3月12日に行われた米空母艦載機の岩国基地への移駐案受け入れの賛否を問う住民投票で投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

		%	有効%
1. 投票した	554	74.6	75.2
2. 投票しなかった	183	24.6	24.8
有効回答数	737	99.2	100.0
無回答・他	6	0.8	
合計	743	100.0	

問2 問1で「1. 投票した」と答えた方にお聞きます。住民投票では、どちらの選択肢に投票しましたか。さしつかえなければ、一つ選んで○を付けてください。

		%	有効%
1. (受け入れに)賛成	53	7.1	9.6
2. (受け入れに)反対	499	67.2	90.4
有効回答数	552	74.3	100.0
非該当	180	24.2	
無回答・他	11	1.5	
合計	743	100.0	

- ・ 実際の投票率に比べると、投票に行った人の割合は20ポイントほど高くなっているが、この種の調査では、元々関心の低い方から回答を得るのは簡単なことではないので、上記の数字は許容範囲と言える。
- ・ 年代別で見ると、通常の選挙で広く見られるのと同様に、若い人ほど「投票した」という割合は低く、年齢とともにその割合は上昇するが、30代以上では、年代によって大きな差があるわけではない。また性別で見た場合には、女性のほうが、投票したと答えた人の割合が9ポイントほど高い。
- ・ 賛否の行動に関しては、実際の投票結果とほぼ一致した数字となっている。反対票が全体の約9割に上るため、年代別で見た場合には顕著な差異は見られないが、性別で見ると、反対票を投じた人の割合は、女性のほうがやや高めとなっている。

3. 賛否の投票理由

 また、その選択肢に投票した理由も具体的にお聞かせください。 ※自由回答形式

【賛成・投票理由】			
		％	有効％
地域振興策などによる市の活性化が期待できる	20	37.7	48.8
国が決定したことは変わらないから	10	18.9	24.4
国防のため必要だから	10	18.9	24.4
雇用面で世話になっているから	4	7.5	9.8
その他	5	9.4	12.2
有効回答数	41	77.4	100.0
無回答・他	12	22.6	
合計	53	100.0	

【反対・投票理由】			
		％	有効％
騒音や事故の危険性が増す	269	53.9	67.9
治安の悪化が心配	134	26.9	33.8
基地機能の強化・拡大につながる	67	13.4	16.9
テロや有事の際の標的となる	23	4.6	5.8
地元を軽視した国のやり方に不満	13	2.6	3.3
基地の存在自体に反対だから	8	1.6	2.0
その他	43	8.6	10.9
有効回答数	396	79.4	100.0
無回答・他	103	20.6	
合計	499	100.0	

賛成理由に関しては、賛成票を投じた人数自体が少ないため、ここでは参考程度にとどまるが、投票理由を答えた人のうち約半数が、地域振興策などによる市の活性化に対する期待を挙げている。次いで、国が決定したことは変わらない、国防のため必要、などとなっている。

反対理由については、やはり騒音や事故の危険性が増すことに対する懸念を述べた回答が圧倒的に多く、治安の悪化を心配する声もかなり多い。ただ、基地の存在自体に反対という回答は有効回答の2%にとどまり、岩国基地に関しては、あくまでも「現状維持」を求めるといふ、岩国市民の意識を読み取ることもできる。

4. 住民投票における棄権の理由

問3 問1で「2. 投票しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが投票しなかったのは、どのような理由からですか。次の中から、あてはまるもの全てに○を付けてください。

		%	有効%
1. 用事・仕事があったから	29	15.8	15.8
2. 健康上の理由から	29	15.8	15.8
3. 投票に行くのが面倒だったから	8	4.4	4.4
4. 岩国基地問題に関心がなかったから	3	1.6	1.6
5. 賛成か反対かでは決められなかったから	54	29.5	29.5
6. 自分一人が投票してもしなくても同じだから	14	7.7	7.7
7. 住民投票の実施に疑問を感じていたから	94	51.4	51.4
8. 投票日を忘れていたから	1	0.5	0.5
9. その他	15	8.2	8.2
有効回答数	183	100.0	100.0
無回答・他	0	0.0	
合計	183	100.0	

岩国市で行われた住民投票では、投票率が50%を超えない場合には開票を行わず投票不成立となる規定があったことから、移駐容認派を中心として、投票ボイコットを呼びかける運動が行われた。その是非についてはここでは論じないが、棄権の中身について触れておきたい。

まず注目しておきたいのは、「住民投票の実施に疑問を感じていた」ことを理由に住民投票を棄権した人が、「投票しなかった」と答えた人のうち約半数を占めた点である。実際には、調査にご協力いただけなかった人の中に、相当数の棄権者が含まれており、その多くは「無関心による棄権」であると思われるため、現実には、投票実施に対する疑問を理由に棄権した人が棄権者の半数近くを占めるとは考えにくい。

ただ、実際の住民投票の投票率（58.68%）を当てはめてみると、今回の調査対象者に含まれる実際の棄権者の数は850人前後と推定され、そのうち「投票実施に疑問」として棄権したという回答が94件に上ることから、この数字は無視できないものと言えそうである。つまり、どんなに低く見積もっても、住民投票を棄権した有権者の少なくとも1割以上は、投票実施に対する疑問を理由に投票に参加しておらず、「何らかの意思を持って棄権」していた有権者が一定程度までいたことを、集計結果は示唆している。

他方で、「賛成か反対かでは決められなかった」として棄権したという回答も54件とやや多い。基地を抱える自治体における、複雑な住民感情を如実に表した棄権理由と捉えることができるだろう。